

トウフ粕を利用した黒毛和種肥育

海外の飼料穀物価格の高騰等の影響によって配合飼料価格が上昇・高止まりしており、肉用牛肥育経営の安定化を図るためには、国内で発生する食品残さなどの未活用・低利用の飼料資源を有効に活用し、飼料自給率の向上を図ることが重要です。トウフ粕は高蛋白、高カロリーで安定して利用することができ、安価な飼料資源として黒毛和種の肥育牛に利用することが期待できます。そこで、神奈川県畜産技術センターではトウフ粕の配合割合や飼料化処理の違いが肥育成績に与える影響について明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 黒毛和種去勢牛を供試して、トウフ粕を濃厚飼料の 50%及び 70%配合し、生のまま給与する場合と乳酸発酵処理して給与する場合とを比較しました。給与試験は、16 ヶ月齢から 32 ヶ月齢です。粗飼料は稲わらを 1 日 1 頭当たり 1.2kg 給与し、25 ヶ月齢以降は 1 日 10,000IU のビタミンAを給与しました。
2. 試験終了時の体重及び試験期間中における TDN 摂取量は、50%配合、70%配合ともに発酵区が生給与区を上回る傾向を示しました。
3. ルーメン液性状および血液性状は、全試験区で異常がなく、有意な差がありませんでした。
4. 枝肉重量は 50%発酵区が最も大きく、枝肉格付は 50%生給与区、50%発酵区及び 70%発酵区の全頭が A5 でしたが、70%生給与区はこれを下回りました。
5. 濃厚飼料の単価は、50%配合が 23.0 円/kg、70%配合が 15.8 円/kg でした。



写真1 トウフ粕



写真2 トウフ粕を配合した配合飼料



写真3 給与試験状況

☆ 活用面での留意点

トウフ粕は変質しやすいため、生で給与する場合には新鮮なものを用いる必要があります。また、70%配合は 50%配合に比べ原物摂取量が多くなる傾向があります。詳しくは、大家畜グループ 坂上信忠 (046-238-4056) に問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)